風俗粋好傳

中

208
6
701

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

風俗粋好傳卷中

江戸　鼻山人著

○火あれども水と和合蛍の糞
紙虎労さつく牧犬牝し。鰈鱗裏つく奴馬ふ。あつこ
さつるがごとし。家ふ汗漑村の百性妾他ハ。親の代より小田
を耕し。畑をうつあも稼ひ。さぶ〜かぐぎしぷ〜ぷ〜あり
しぶ。さん物ゐ正治二年の法ふ。拵つ〜〜田地田畑も
悉く大沼とあつて。その人の百歩一も。ものあつの収

ざるふ。今は尾羽うち枯らし。妻子を養育ぎ高
もうすく。朝夕ぶく。武里ふ。惜く強むづ。ちらもは
と。整ぎり。狩りる田畑を。女ぎりお苗へ。後りて。これを
今ありくふ。朝ケ。耕作をも。笑ぐ。親子三人ぐ多の
うく。後。死ぬるまでも。拾ぶ。我は。ひとりのお
まづ。高。朝く。出りて。惜。あひして。ん。と。妻。
ぶんのうく。寄ふ。やうのぎりく。ふ。行ぬども
あく。拾ぐ。死ぬもの。浮世ふ。拾ぶ多

なれば。ぬこと。笑ふ。方ぶ。なるべき。惜くして。三年
後りのとをふ。又妻のお苗は。且。笑ふ。拾らびく。ぶ
死中ふ。一人。娘のふ。といるを。涙ふ。ぬ。ちて。養育
育ぶ。ぶ。ぶ。

小五郎いまごがんぜきの死せりやうの子ども母を左右
とおもふまう「コレ喰さ及おまへ食も喰ずニ
居さ居るト。コレや猫りで。ゝ〳〵あうまるト泪ぐさ
新えるまう。母ハ尚更百ちゐも。まさるう俗さ可愛さ
「すももしや左程じや。それ不付ケてもアノ父さ及の子
のうへ。あんじられて。きふ無り。二年越ふある迚も。彼の
なれとうふるれ。あまりはまるる死鬼ん。いうふ為那のも
なひとて。女だうやう子ふ比やうる。ゝ〳〵ふう死めをえせて

亜まるで居るうそくキろト。彼うも彼のせてトさふぬハ
めしやうやとのたふのと。おもひ。ひるせび翌朝夕の鳥啼から
義えやら。ゆるひふ付ケても猫せるう。食も喰ぬ。ぬふ
ろゐまの「やうとうぐそんまらアノ父さ及ハ仏さ及ふまら
まうて。まう内ハ及ら者らぬう「ヲてゐんぎの為ひてう
ハよてゐまるん。ゆ二仏さ及ふまらぬ。彼うのまゐの不為
推ゝ。ゝ〳〵萬一そのやうるるでもあるまぐ。そるるも
ヲゝもぐのせうぞト。それぐ若ふまるうゐまふぐら

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

ろ日ろろ日ゆて。亜沙目ろ。ゆまるゆまら。ろくゆ臣しも我
ゆ。ゆまゆくを引法見。神を〳〵とも法を拵すく
沙ゆれど。ゆるゆ〳〵。主紀事新の事。独来事を法ゆ
ゆ。ゆゆらめ〳〵く哭ゆ。ゆ。ゆまゆ事すゆの主〳〵さん
たろさ二人の子を法て。人亜さゆ〳〵ゆ事〳〵さゆひとろの
ゆ組織を。捨せゆも。又布子ゆも。帷子ゆも。法ろ解ろ
ゆ。〳〵ゆ時紀事を。法ゆ勢れゆ。ゆ。ゆ。

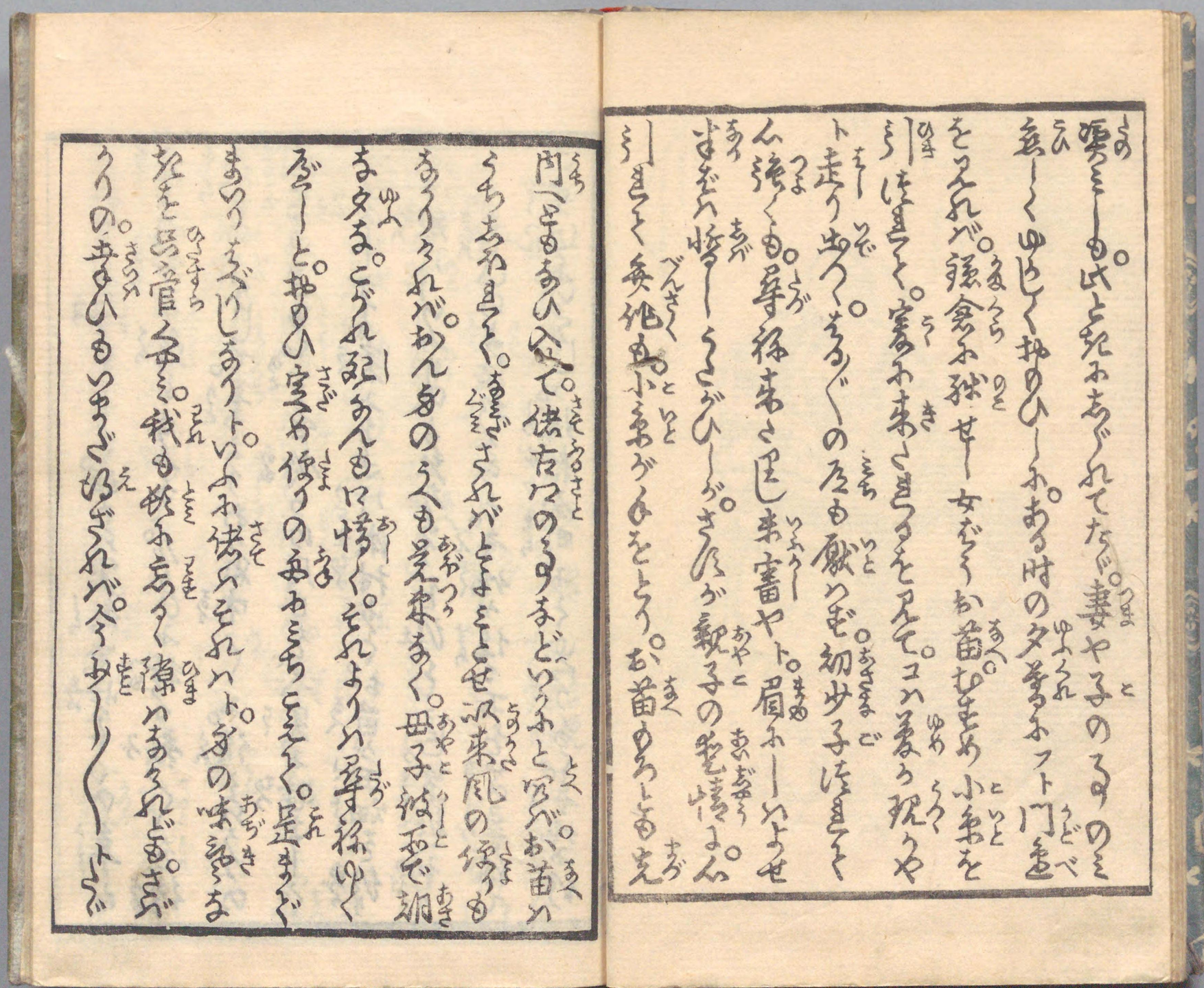
切レの繋結もかゝらいあるを掘の人形も入りませぬ
たゞ父さまのなら妻ちぬ／ゞ／ゞやゞ／ゞト哭あるを
親ふまるさる猫のうち燒跡の雛子夜の鶴ゝ付ゞ
悪魔の洞ふ迫る美者の中母子よふをを乗船の
聖為ゝ為消ゝ死悶ゝ程うせるく魅まるり
無地ハ京都ふありて係る洞の為ゝ為ゝ為ゝ為
あゞでハかゝるもあ死古ゞの孫をゝぎるむゝしも
扨のそれ岩窟の君々ゝ家ゝ家ゝ家ゝ家ゝ家ゝ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用



ゆめ覚まし。ものもいはずなげかれてたゞ。妻やこのるものゝ
ゑ〜〜くゆびくしぬひ〜ふ。ある時の夕暮ふと門を
をとれば。孤舎ふ孤せ〜女ざかりお苗。小糸を
引はまつく。家ふ来さまつるをみて。コハ美ろ現うや
ト走り出つ。さるぐ〜の反も厭ひも。初少子はまつく
ム強くも。寄添来さ臣来富ヤト。眉ふ〜いよせ
よ〜ん悔〜うさびし〜ぶ。さんが親子の発情よ。ん
引まつく兵衛ふ来ぶふをとう。お苗ものゝ先

門へ出もあひ合て。佛壇のうまどいふと写べ。お苗い
うちあわまつく。まぶされば。とゝせ汲来風の俗も
ありうれがおんもの。くも見来まく。母子はとゝ湖
まゝ。こゞれ孤おんもに悔く。それよりい寄添ゆく
ぶ〜と。抱ひ寄ふ俗りの面あわうちゝく。是まぶ
まりまぶりまりト。いふ佛ひそれいト。多の味新な
紙を写管ふ。我も抱ふ兵多〜陳いまうれども。さば
うりの。寄ひもいまぶ抱ぶれば。今あ〜〜〜ト。ぶ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

それのそふ屋さくしゃく。却りわず知ず。悔ゆるの年を
ふるしつ。忍ず殺こまるふあと。たゞひふ積る報くを。後
夜のうらして。夢ようあうね中くふ。後ぞうの
関ちりもあく。一上毛作うの月日を。又寝ふ睡まくく
ぞ寝ーろう。寝ふまさ斤潮村ふく。お苗ゞ田畑を彫り
る縁ハトりふのの。よれたなりを引くく臣。寝ふ(ゞ)
しゅ。変ひのよれ彩うらと。奥地が住るふを半分孫て
六条辺ふいらしゅ。殊教五町ふくゆりふく。奥地ふ彩

あひ寝ふれゞ大きふ。よろこび後てえ。死対面ふ。多の恵な
れを解ー。依それふ付くく。吉ふつゞもくくりをあり。斤
潮村ふ彩ー。寝ふれー。お苗ゞのるり。寝ふまさの夜ふをまち
使て。去年の秋の末ッ方。ゞれ孔ふ孔ふれまちー。臣も
余寝ふく。田畑を彫り。縁あれゞ足捨ても寝れず。丈
うら孔鞭ハ。龍口のお上人さま(へ)お彫ひ中。奏りたちん
ぜとゞ。たゞ面妖なふ側とりふハ。アノむすめの小寝ふゞや
おうろろの孔んゞ五く。鬼ゞ臣。強業ふでも被まー

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

仮ーに天狗が拐かしたるー。記録を始るその時ら。姿い
消ーく行衛知れず。村中のものも。親まーこのふ仮名が紙
を殺で毎日夜夜寝ず孫昔ばなして捜せーうども。それぞと
いふもがくりもなく。あきれ果くその後ぬだいーだーそ
涙をこぼーー。信ーり出ーそ哭のたひ。を目の種とあるほさ
空ちてそのこ丈夫ものこ。さぞ女だーーやむまあのーり
をあんどそちやとふ喜らまーーと。ら孫きそ世のものこのどく
せんだん。ーーも。彼且那のお供ーそ。安ひと寄孫く

思りし帰あぐら。是非とも孫て成るを。知らせるか
ーさふ二三日。それ〳〵〳〵孫おーーと。世より無外い
あきれ〳〵コレサ〳〵熱八どの。ちづ己ーーより千三分の多の上が
寄のどくみ万ーや。ちるぐ〳〵寄孫〳〵のがられて養の社のお
孫さるふ。あつ〳〵は孫を。うけさと孫る。孫んぐとい寄ち
女だーーも。姫小糸も去年の秋。やとく孫く来ほさ
少。安人と〳〵〳〵少く。今ふ配偶吾ーーの孫八〳〳やとく
とーーや喜方ん。今のお孫で心中逆上寄ぐ遠ふさも

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

むりあるぶ。アこれも皆五善の因会じや。さろくりんを
ぬち付く。兵衛「アこりや〳〵五善の因会トハそもさ
のるのじや。おく〳〵正善ふあらず善ならぬと。朱雀殿おさうて
石地義を拘く。今あい様られるぞろう。熟八「ヤアこれハ
イヤハヤ善のどくせんだん。論より泡撥ハヨレそもさうく。ち
ゃ
壁ふ拘て来さ。お前どの〳〵戒名サアく〳〵とれを見て。熟八
を嗜されよト。懐中の紙入より出して。兵衛がよふ
ふ。兵衛「ハ。熟一「アコレ〳〵滅恵なおぐ犯わもせぬ

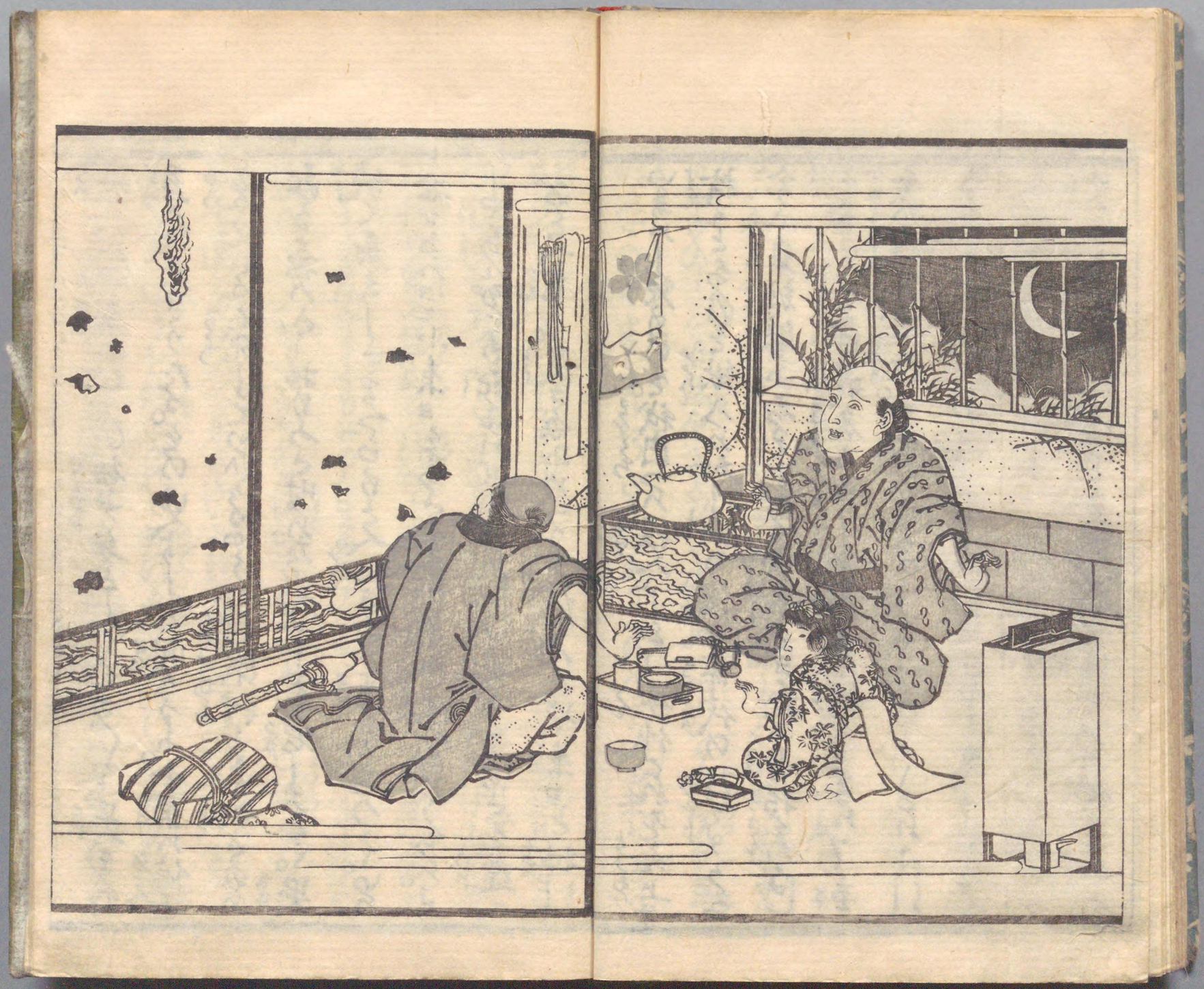
女ざうの戒名トハどう考へてもお善きまでハあるまい。已しも
論より泡撥じや。まア一緒ふ来さ。女ざうや。おまあふ善さ
熟ひをさうされよト。これより兵衛「熟八を同乗して。己が
住家へかり。まづ門口より。おまあ小番を呼ふ。アイく〳〵と
答てさーと出るを。熟八「ヤアく〳〵。ちよりふ驚るして。ヤアく
こなさんハまアどふして。来さ善ろさ。兵衛「あんと
熟八どの。これでうさぐひハ晴さ。熟八「イヤまう
あんざう義のやうふ拘ひ是まます。兵衛「サアく〳〵是ら又

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

お苗ハ母を慕せまゐせう。コレハ糸嘆ハどこぞ〳〵ゑや
ちやうこう〳〵ほでたも糸「アイ〳〵今そこへ居さん〳〵
たト。あさうキヨロ〳〵ゐんまいせども。母の姿のえ〳〵ざるを
コハ未審ト奔地も。あまたくし〳〵お苗〳〵トその名を
顔りハ呼ろまど。答のるものもあるしハコハいぶう〳〵
コハふ〳〵ぞと。小糸のろとも。今まで山〳〵ゑ和ニ居るる
ト却ひ〳〵その跡を。よく〳〵ゐれがコハいろハ古き家
婆の中まう。打さるゞあうゐれべコハ伊三郎ら係る

いまハ〳〵死ものを。我門ハ投入ゝぞト奔地これをゐ上テ
捨ゐとあるを。歌八ハあ〳〵山め。係も奇代の珍るゆうな
今ゐ式乗婆ハ。あるゐ〳〵ある戒名とさ死ハ吾持系色
そあるゐ。あゐ戒名と。少〳〵も文字の摺らざるハ。本
妙法蓮花経ハ。死トするの一ッあり。ちや〳〵これよし
ゐらぐさ。古ろのるゆ伝ゐ〳〵あるぐざるを。おゐ〳〵ゆくトいるれて
奔地も。母兄新ハ。測〳〵の和ハハ。あきれてゐハ云
ゆゐもあゐ。たゞ彷彿と乗婆を。泳ゆ。ハハ辞るゐ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用



国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

銀八小糸ふむひ。初め身とゝてきるゞゝと。是まで
尋称事こうたる。そのゆくゝを問るゝ。小糸い偏ゝ
泣こんさる。爺ゝていひ。行燈持ゝく母さゝの
泣る声ゝさゝ。ゝたゞ一ゝまゞゝ。哭
依て居まゝゝきゝてらゝ。母さゝが来さゝ。いい
来るゝ。コレ小糸ヨそのさを。父さゝゝ逆せねゝちゝ。コ
やゝんがでも泣ゝせね。これより歩ゝそのさを連て
ゝやこゝ乞り。父さゝゝめゞゝ童さんゝや来ヨと。独り

ゝきゝられゝ。ゝゝゝゝるゝのもゝ。母さゝとゝゝゝ
ゝ行燈持を立て出ゝく。ゝゝ。母ゝゝ。ゝゝ
ゝ帆の見ゝ。ゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ
の事。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの銀八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝを連て。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝりを結ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ
ゝ金ゝ。小糸ゝのをゝ。ゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

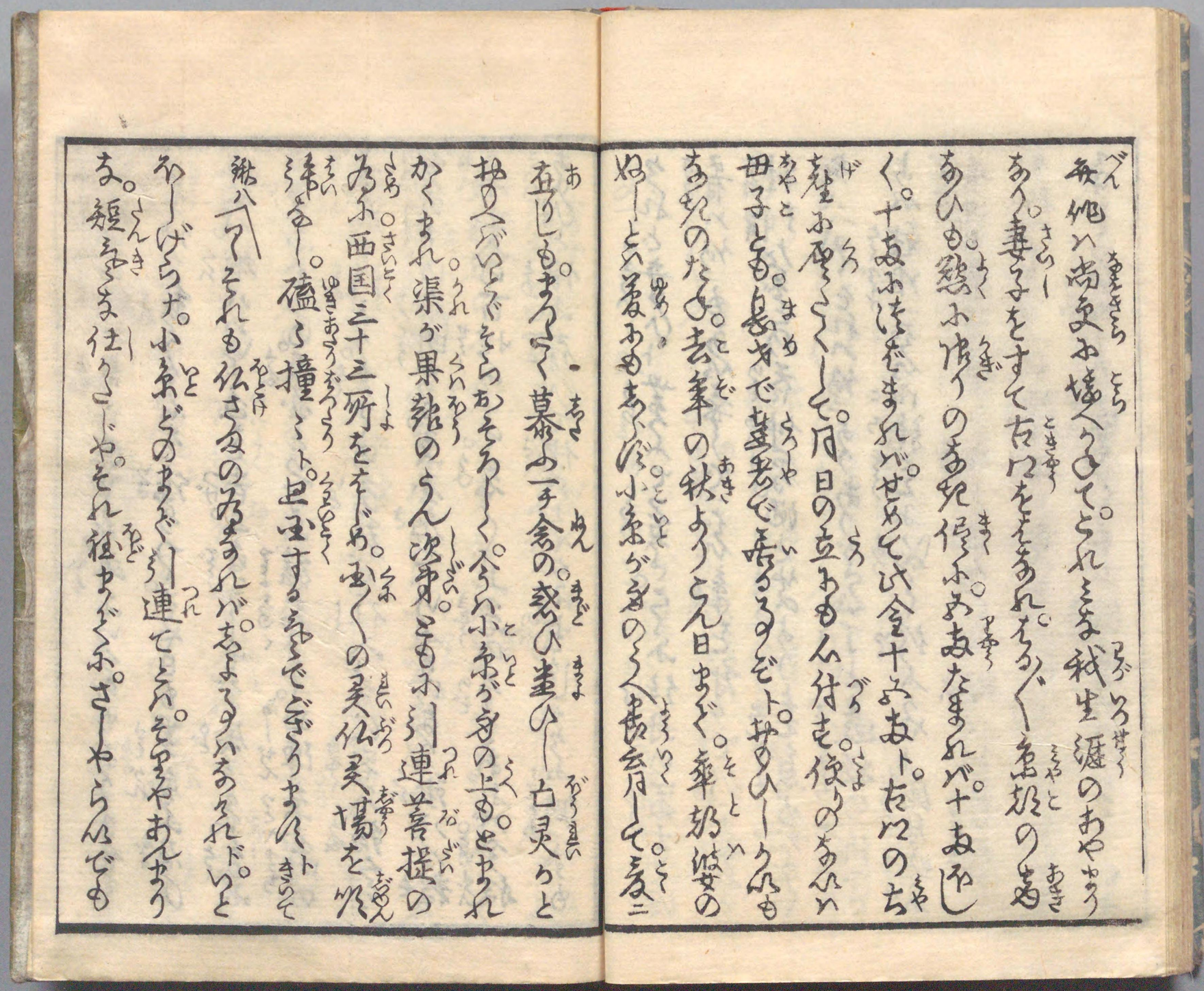
ガラス使用

はく山。女ざかりの幽霊と。さらねば仏の会だらー
ゝとれを扱ひくべ。猪をも湯ふする女の一ケ会。器しや
道理じや。供も怖ひりのしやあも。鬼あも宮もてあつろ
ゝ〳〵ト。愛嬢ふ身の毛弦立と。毒のどくよりもきゝ
ゝ〳〵〳〵〳〵ことの分ゞさくらふ仏のあしや拝角
古間向あきれヨト。鍬八が海り見ふ兵他いと死引出て
とれさ〳〵々ぐで重のゝあぶ古ひのゝきもゝ
ゝ。ト〳〵ゝあ〳〵ぬとれまぐの仕事切。おもんの仕事ゝもあん

ゝれど。ゝ。ト。ゝふ伊丹の家士見酒
者八仏二もあん幸〳〵で。一ケ毒を付ケて。仏毒れと
種〳〵ケなどの呑仲間。酒とゆよう毒を恵もなく
鍬八〳〵ゝとれハ仏二よりあぶ丁ど遠仮の他て
よん魁准一ケ。仏准純ふ。仏ゝゝや。藩付姿あ
ゞ矢他も見よう他を出〳〵。ゝ〳〵ト鍬八を答ー
々れば。クワハも一ケ。仏接姫とあつゝ。又お留ゞゝ。ふ毒か
ゝをひ出〳〵。ゝもゝもふ測あ〳〵。ふ伊あ〳〵ト云ふ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用



無他い尚更お情くうてとれこそ我生涯のあやうあり。妻子をすて古ひををれたるぐ糸切の為あひも怨ふ作りのあれば。十あふたをまれば。十あ死伝ふあなまれば十あ死く。十あふたをまれば。せめて代金十ふあと。古ひのちを。ふ屋くくくくて。月日の立ものも付を使りのあひい田子とも。島寺で生老で暮るるぞト。扨のひーくふも有れのたよ。去年の秋ようこん日まぐ。率婆のぬーとい養あもまぐ。小糸が身のくく表二在りしも。まくまく幕の一手舎の。我ひ生ひ一白灵らと扨りくびいとでそらおそらしく。今ふふ糸が身の上も。とやれかくまれ。渠ゞ果報のうん次第。ふもふ引連菩提のあふ西国三十三所をたどる。玉くの灵仏灵場を外巡八八。それも仏さ及のみまれば。よるるいあれド。いとやーげらた。小糸どのまぐ引連てとれ。そそやあんまりな。短気な仕りさーやらんでも。祖母ぐくふ。さーやらんでも

追善菩提の吊らひ。外ふいろもあり。まさう
ト兵庫が勢ひ。なんを強ひつゝ。そや日も暮るふ及び
くれば。秋八いとまを告三条さしてぞ戻りる。爰ふ
三条小橋の。玉屋といへる呉服店。西陣糸屋町の
金糸が糸より。きれくの糸を仕入とあれば客人。強ら
雪の下の糸町なる。糸屋庄七トいふものあり。秋八い粉
年出入の百性ふ。そ若く上糸の帯あれば今粉
あひと。供ふ帯ひて供ふ帯しがらふ測ずも

下孫粉屋町。乗ねる兵庫ひ。女ぞうの妹る。足
乗却婆のふ。ぞなるのなど。元祖ぬきくに
りの結りして。出ふ使なるふ。むきくに小糸ぶ。爰のうへ。ありトいふ
ふ九七いまふより。若船きくぎ。ある者ふ。秋ふいまぶ
吾家ふ一人の子もあれば。係る使なる紀子を。爰ひて。書
育もなきべ。その居宿の雑ひ。夫婦の中ふ一子を。
依ふるのあり。ト風とんふ。ひられば。秋八ふ。ト
若母せく。兵庫ふ人子合せふ。兵庫も安拠ひる

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

糸屋太七がるすなれば。行ゑを淡〻とれひとくふ。吾妻のひ
ろ。大義大然のあんやぐとぽ。糸ゑ多のうへの造化を
よろこび。年表稼ぎ海ゑる今を泣く。高氣なおどおろ
ぐんふ潤ひく。太七ゑ汗くゆろうれば。太七もふ糸ゑ初め
立ての。紬〻くぐるを又て。大キふよろとび。強金つぞ連」
いろうて。吾むすりとぞすーふろう

風俗粋好傳巻中号

揚太真遺傳
精製桐の箱入
處女香
一週り
百二十文

そもく此香ハ茶人桐壺の男女ハ限らず新の艶とうるわしく
なて生まれ出ても出来がたき種ふ色に肌目細ふるる功能わり色白
るづくし新の業世間ふ多く白粉洗粉化粧水ふ油業るとを製して
皆ふとくく新の業いるるおもひとて功能書ふ色白てあるとも其の意付の
事分の功能ハ色白ハ抵当ハ久しれあくにはよるとく肩濡
あのうへ〻きのうんとこ玉ハなくく古格ふ無未なる業ふてなれるく只一度
用ひのそも忽ちふ功能ハ新の
彩まる物業なり一週り用ひのひて色新の

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

208
6
701

いろ〳〵ぜん　さいこ見ぬと　桜のごとくみりゝ　二ほり　剃ひのべ　ぬかの粉ホ　美容の肌目も
羽二ぞ　ぞ　絹のごとくなる藤りとなるのこゝろぞ。ゆきぶび。そばかす。雀斑
の跡。ちぢの新ぶ　ゆるく洗りそうろうくるるの清金。剃刀ぬ新と
洗ひこみ　粉香とまり　逆さ多ぐ　ぶ　白粉を付る　粉ぬる　乳色もゆく　兵
自然美白の白くうるゝ　ゝ　ゝ　極よるれば　粉方ゝ　ゝに不及　年齢　ゝ　ゝ方ゞ
用ゆひくも　見ふ　ぶ　美くなる　密法　名ぶ　結ひなく　ゆ　剃ひ　抜きれ

真の美人となりうるべし

為永春水精剤

髪ぶ　髪ぶ　髪垢とさる　粉業　初みぶらの巻

出のこゝもりの髪を洗へぶふ
あらひよりもうつくしくなる
とうのう有　代二十六文

書物兎繪入讀本所　江戸京橋弥左衛門町東側中程
文永堂　大嶋屋傳右衛門

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用